

意見・質問	長岡造形大学回答
<p>5ページ中段「(1) 大学の教育研究等の質の向上に関する取組」の「ア 教育に関する事項」 地域社会と連携する学部授業の活動成果について：</p> <p>項別自己評価結果の第8項目、第43項目で自己評価ランクをSとしており、「地域協創演習」についてその成果の特筆性をより強調した文章表現でもよいのではないかと。</p>	<p>ご意見を踏まえ、報告書の記載を以下のように修正しました。</p> <p>(元の文) 学部の授業科目「地域協創演習」及び、大学院の授業科目「地域特別プロジェクト(大学院)」では計18プロジェクト、150人以上が参加した。継続するプロジェクトのほか新規のプロジェクトを複数設定し、学生の創造力、応用力、実行力などを伸ばすことに努めた。</p> <p>(修正文) 学部の授業科目「地域協創演習」及び、大学院の授業科目「地域特別プロジェクト演習(大学院)」では計18プロジェクト、150人以上が参加し、公立化以降最多のプロジェクト数となった。6年間継続したプロジェクトのほか新規のプロジェクトでは若手の教員が地域・連携活動の推進役として新たに加わり、海外でも展開できた。様々な立場の地域の方との交流を通じて、学生は創造力、応用力、実行力が鍛えられ、またその活動はメディアに多く取り上げられた。約8割を占める県外出身学生も、演習やプロジェクトを通じて地域の魅力を発見し、新しい価値の創出に貢献した。</p>
<p>6ページ上部「ウ 地域貢献に関する事項」 NaDeC 関連の成果について：</p> <p>項目別自己評価結果の第34、第36、第40項目が対応しているが、NaDeC Base活用のワークショップの実践の記述の中で産官学連携の特質が活かしていることを強調しても良いのではないかと。</p>	<p>ご意見を踏まえ、報告書の記載を以下のように修正しました。</p> <p>(元の文) NaDeC BASEを活用したデザイン思考ワークショップ、デザインマネジメント研究会のメンバーである長岡市内の一企業を対象としたデザイン思考ワークショップを実施した。</p> <p>(修正文) NaDeC BASEを活用し、NaDeC構想推進コンソーシアムを構成する各大学の学生や異業種の多くの企業人などが一緒になって、多様性と集合知を活かしてイノベーションを創造するための手法としてのデザイン思考を実践的に学んだ。</p>

<p>6ページ上部「エ 国際交流に関する事項」：</p> <p>トリアー応用科学大学との学生交流の結果としてどのような効果、成果が見えてきたのかできれば触れて欲しい。</p>	<p>ご意見を踏まえ、報告書の記載を以下のように修正しました。</p> <p>(元の文) 本学大学院修士課程の学生1人を交換留学生として半年間派遣した。また、トリアー応用科学大学学生を特別研究生・特別聴講学生として、前期に3人、後期に2人（内1人は前期からの継続）を受け入れた。</p> <p>(修正文) 本学大学院修士課程の学生1人を交換留学生として半年間派遣した。また、トリアー応用科学大学学生を特別研究生・特別聴講学生として、前期に3人、後期に2人（内1人は前期からの継続）を受け入れた。 本学からトリアー応用科学大学へ留学した学生は、宝石加工の専門分野を中心に海外の技術を修得するとともに、自身の金属造形分野に応用し新たなアプローチで研究成果を上げることができた。また、トリアー応用科学大学からの留学生は、自大学にはない本学の分野の知識や技術を修得し、それを創作意欲に応用していった。 留学した本学の学生は、トリアー応用科学大学の教職員や在学生とのネットワークを広げ本学及び長岡市を広く紹介し、一方、トリアー応用科学大学からの留学生も学内において在学生と交流を持つなど、それぞれが双方の大学の認知度を高める懸け橋の役割を果たした。</p>
<p>通番9（I教育に関する目標）：</p> <p>地域協創演習・ボランティア実習・インターシッ プについてS評価と高い評価となっています。 【参考資料集】の実績報告書を拝見すると、実施プロジェクトの数や受講人数も多く、「地域で学び、地域を育てる」という計画を実践されていることがわかります。 その中でも顕著な成果(学生の創造力・応用力・実行力を伸ばす)を具体的にお聞かせください。</p> <p>また受け入れた団体・企業さんの具体的な感想をお聞かせください。 新型コロナウイルス感染症の影響でこれらの活動が今後難しくなる可能性があるかと思いますが、学生の為・地域の為にも引続き実施していただきたいと思ひます。</p>	<p>顕著な成果(学生の創造力・応用力・実行力を伸ばす)については、別紙1をご覧ください。受け入れた団体・企業さんの具体的な感想については、別紙2をご覧ください。</p>
<p>通番23、30（I教育に関する目標）：</p> <p>現在、出席不良等で留年や退学者は年間どの程度ですか？</p> <p>また【参考資料集】を拝見すると、そのような兆候が見受けられる学生に対し、修学特別支援室の設置や「教職員のための学生対応ポイントガイド」等の作成、担任制度やオフィスアワー制度等で履修指導を実施されきめ細やかに対応されていることがわかります。</p>	<p>出席不良等で留年や退学者について 留年者（うち休学者） 学部 R1→R2× 49人（13人） H30→R1× 47人（23人） H29→H30× 71人（28人）</p> <p>退学者 学部 R1 18人 H30 22人 H29 27人</p>

<p>具体的な学生への修学支援で解決できた事例等あればお聞かせください。 (今後の新型コロナウイルス感染症の広がりによっては修学が困難な学生も増加すると思われます。)</p>	<p>修学特別支援室では障がいのある学生及び修学するうえで困っている学生の相談窓口・調整・サポートを行っています。支援申請のある学生はもちろん、障がいの自認がない場合でも自己理解を支援しています。</p> <p>発達障がい学生に対しては定期的な面談で課題等のスケジュール確認を行い、自己理解と対処法の修得を支援しています。医務室利用から学生相談室、修学特別支援室、キャリアデザインセンターの利用につながり、支援を受けて卒業、就職内定した例があります。</p> <p>また、大学レストランで1人で昼食を食べられない学生からの申し出で、事務局職員と一緒にランチをし悩み相談も行う「ランチ会」の開催、卒業研究の個別対応、出席不良学生の保護者との改善に向けた連携など、きめ細やかな対応を実施し、学生の進級、卒業に繋げました。このほか、担任制度、オフィスアワー制度においては、LINEなども活用し、コンペ出品の相談、コース選択の相談などに対応しました。</p>
<p>連番39（I 教育に関する目標）：</p> <p>【令和元年度長岡造形大学就職等進路状況について】の資料によると、市内就職率は6.9% 平成30年度は6.7%とほぼ同程度で推移しています。また県内では26.6%から15.8%と減少しています。今後も傾向として同様の割合が想定されるのでしょうか？</p> <p>公立化されたことにより偏差値も上がり県外の学生も増加していますが、県内並びに長岡に就職してくれる学生が増えるよう、企業側も含め魅力の伝え方等工夫が必要だと思えます。</p>	<p>これまでは好調な景気動向もあって、学生にとって首都圏等に魅力的な職場が多くあったのは事実ですが、新型コロナウイルス感染症の影響により、東京一極集中に疑問を持ち始めた学生も見られます。企業の求人動向がどうなるのかも不透明ではあります。このような状況下ですが、市内企業、行政と連携し、地域の魅力発信に努めていきたいと考えています。また、大都市で経験を積んだ後にUターンする希望を持つ学生が少なからず存在するため、卒業生へのUターン求人情報の発信にも注力する予定です。</p> <p>市内就職者を増やすためには、総合的に長岡が魅力あるまちになることが大切で、本学としては地域貢献活動をより一層推進し、市内就職者が増加するよう取り組んでいきたいと考えています。</p>
<p>その他ご意見</p>	
<p>出願者アップの裏に、学校を知っていただくための色々な努力がされており、結果として繋がっているのだから嬉しいと思います。</p>	
<p>地域、社会、企業と連携したプロジェクトや、2種類のインターンシップは学生たちが興味を持ち積極的に参加していると感じられました。</p>	
<p>「人事評価制度」が職員のモチベーションアップにつながり、そして学生たちへもフィードバックされることで大学へのさらなる評価アップにつながることを期待します。</p>	
<p>アイスクリームの自販機は学生には大人気になるでしょう！</p>	
<p>NIDの広義のデザイン学を軸とした特色あるカリキュラムとキャリア形成が社会的評価を受けている結果、出願者数の増加や大学院の充実につながっていると思います。「地域協創演習」や「地域特別プロジェクト」もSDGsに結び付く素晴らしい取組であると考えます。大学の真摯な努力の結果だと思えます。</p>	

確認事項 1 令和元年度業務実績報告書について

草間委員の質問

①年度計画項番 9、60 関連

ご質問「顕著な成果(学生の創造力・応用力・実行力を伸ばす)を具体的にお聞かせください」について、いくつかご紹介し回答とさせていただきます。

なお、令和元年度業務実績報告書の分野でご質問いただいておりますが、成果をイメージしていただくため、過年度実施した事業も含めさせていただきます。

【摂田屋こへび隊】

主担当：渡辺誠介教授、実施年度：平成 26 年度～

醸造の町である摂田屋地区において、上組小学校にミニ饅絵教室の開催、三国街道の価値を認識するための灯りイベント企画の実施、サフラン酒本舗の掃除ボランティア及び PR イベントの企画協力を実施しました。学生は教員の手を離れ、地域の住民や NPO 主体のまちづくりに係わり、チームで様々な段取りをつけ、机上ではなく実際の行動を元に地域の方と議論を重ね、提案を否定されることもありましたが、その繰り返りで創造力、応用力、実行力は鍛えられたと思います。三国街道は昔、道路がボロボロで外灯もなく、こへび隊の活動を通して市民に訴えていたのが形として表れ、長岡市が当地を譲り受けるべく、所有者と合意に至り、長岡市の所有となりました。その後、長岡市の街なみ整備事業のまちづくりにつながり、数々の積み重ねが地域プライドにつながるという学びと、学生たちに自信をもたらしました。なお、地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(NIIGATA COC+) インターンシップ・地域活動フォーラムにおいて優秀賞と賞されました。(平成 30 年 2 月 21 日)。

<https://www.iess.niigata-u.ac.jp/cce/niigata-coc/news/intern/854/>

【自然共生型産業を目指した farm miel project】

主担当：板垣順平助教、実施年度：令和元年度

令和元(2019)年度より、地域協創演習のフィールドを長岡市内や新潟県内にとどまらず、東南アジアの最貧国の 1 つであるラオス人民民主共和国において実施されている養蜂の技術支援及びハチミツの商品化にかかるプロジェクトに参画しました。このプロジェクトでは、森林破壊や不発弾汚染などの社会問題への理解も含んでおり、大学院の演習でも実施しました。地域協創演習のフィールドを国外にまで展開できるようになった背景には、これまで市内や県内において実施されてきた様々な取り組みを通じて蓄積されてきた地域貢献のノウハウを国際協力につなげられるまでに至ったからです。学生らがデザインした商品が現地で販売されたり、提案が現地の政府機関によって実施されたほか、メディアにも取り上げられました。また、このプロジェクトへの参加をきっかけに、地域活性化と国際協力の結節点に強く関心を持った学生もおり、国際協力機構(JICA)へ本学が主幹となる草の根事業のプロジェクトを提案するなど、授業の枠組みにとらわれず、授業をきっかけに新しい取り組みへと発展しています。

【摂田屋の醸造製品を使ったみたらし団子(JOZ0-●●●-)の開発と販売】

主担当：渡辺誠介教授、実施年度：平成30年度

長岡の特産品である味噌や醤油のPRを目的に大学院生らが摂田屋の味噌、醤油を製造販売する企業や江口団子、長岡農業高校の学生らと自ら関係を構築しながら商品開発を行い、実際にイベントなどで販売されました。また、これらの取組をビジネスモデルとして再編成し、第四銀行や北越銀行が主催する「第3回 NIIGATA ビジネスアイデアコンテスト」にエントリーし、グランプリを獲得しました。また、このプロジェクト終了後も、江口団子や長岡農業高校がプロジェクトで開発された商品を発展させ、オリジナルの商品を開発してイベントなどで販売するなど、プロジェクトの波及効果が見られました。さらに、このプロジェクトの中心的役割を果たした大学院生はこの取組を修士研究として取り上げ、2019年度日本デザイン学会第3支部において奨励賞を受賞するなど、活動だけでなく研究成果も高く評価されました。

(<https://jssd3b.jp/?cat=4>)

【新潟県立万代島美術館「タータン展」関連企画「トキタータンプロジェクト（案）」】

主担当：菊池加代子教授、実施年度：令和元年度

学生たちは現地佐渡を見学し、トキと新潟をイメージし糸染めから織り、展示までを手掛けました。本学卒業生が務める見附地区の繊維製造会社数社の協力を得て、最終的に美術館における展示が大変好評で、新潟日報やUXテレビなどでたびたび紹介されました。各プロセスにおいて、創造力、実行力などが発揮されました。

<地域協創演習と地域特別プロジェクト演習の顕著な成果のまとめ>

これまでに紹介してきたように、本学が実施する地域協創演習や地域特別プロジェクト演習では、単なる授業の一つとしてだけでなく、学生たちにとって実行力や創造力、応用力を養う実践の場でもあります。これらの授業の教育効果を言葉で説明することは難しいですが、メディアに取り上げられたり、様々な賞を受賞したことが、それを示す何よりの根拠にもなるかと思えます。また、これまでの地域協創演習の取組の多くは、自治体や企業の依頼をカタチにする（既に内容が決まっている冊子や試作品の開発）ものばかりでしたが、2019年以降は、自治体や企業の依頼をもとに、具体的な企画立案までを全て学生が主体となって取り組むようなプロジェクトも生まれています。

こうしたクライアントのニーズや要望に対して学生たちが自ら成果を考えるようなプロジェクトが出現した背景には、学生たちの想像力や応用力、実行力が底上げされてきたからこそその結果であり、本学の中期計画にも明示された「問題・発見解決プロセス」としてのデザインが地域課題の解決にも寄与しつつあることを示すものだと考えております。

インターンシップ 企業からのフィードバック(例)

	企業住所	事業種	企業担当者からのコメント
1	新潟市	デザイン制作会社	思っていることをカタチにすることが少し苦手とっていたが、課題に対する考え方や企画力は素晴らしいと感じた。学生にありがちなデザイン先行ではなく課題に対してしっかりリサーチ・分析した上で企画を考えており、最終日の発表では説得力のあるプレゼンテーションであった。お客様への取材時でも積極的に質問し、撮影時もカメラマンへ自分の考えを的確に伝えるなど、高いコミュニケーション能力を持っていると感じた。
2	東京都	広告制作プロダクション	目的意識をもってしっかりと取り組むことができていた。課題は設定を作ったうえで、しっかり企画できていたと思います。また広告とデザインのバランスが良く表現を効果的に使えていました。プレゼンはもう少し大胆にプレゼンできるともっとキャラクターが活きてくると思います。
3	長岡市	スポーツ用品メーカー	販売対象に向けて何が優れているか新しい訴求ポイントを創造しながらテニスラケットを題材にデザインを検討する実習を行った。コンセプトを明確にして新鮮な提案を打ったこと、またそれを伝えるプレゼンテーションの内容が素晴らしかった。
4	燕市	金網・線材製品を中心とした業務用厨房向け道具の開発	課題を的確に捉え、アイデアをすぐに反映できていた。細かいところをよく調べ、課題からぶれない状態で提案ができていました。ビジネスマナーなども基本的にはできていましたが、もう少し明るく、ハキハキできると良かったかなと思います。
5	静岡県浜松市	四輪車及び二輪車のメーカー	ユーザー目線による商品・デザインコンセプトの発想とスタイリングへの落とし込みを行いました。普段からプロダクトに関心をもって観察していることが感じられる。よく考察された魅力のあるデザイン提案で、使用シーンや車とのパッケージングも説得力のある提案となっていました。偏りのない視点で商品・デザインコンセプトの構築ができています。デッサン力の向上や立体造形の把握力が向上できれば更に説得力の増した造形になると思います。
6	同上	四輪車及び二輪車のメーカー	我々が課題に込めた思いを的確に把握されて、市場ユーザーが大切にしている心理にフォーカスして真摯に取り組まれました。企業においてもユーザーの心理を追求することは原点であり最終目的なので、欠くことのできない資質を有していると思います。
7	東京	建築事務所	実際に必要な基本的スキルが高い。デザインの着想を言語化し、伝える力、形を造る情熱がある。